

あら 荒川につくられた治水施設

川を安全にするさまざまな施設

川を安全なものにするために、川のまわりには、堤防のほかにも、いろいろな施設が、上流から下流までつくられています。

洪水のはんらんを防ぐ施設は、次の3つのような働きをします。

①流域に降った雨が、川へすぐに流れ出ないようにする。

堤防

川の水があふれるのを防ぐため、両岸に土を盛り上げてつくられる施設です。



小畔川の堤防(川越市)

護岸

川の流れて川の岸がくずれのを防ぐため、木や石、ブロックなどで岸を固めることを護岸といいます。そこにすむ生きものにやさしい護岸を多自然型護岸といいます。



都幾川の護岸(東松山市)

②洪水が、はんらんを起こさないように、特定の場所に一時的にためる。

③川に流れ出た水を、なるべく早く、海に流し出す。

川へ行ったら、どんな施設があるか見てみましょう。

水門・はい水機場

大きい川から小さい川に洪水が逆流するのを防ぐために、川と川の合流する場所につくられたのが水門です。水門によって出口を失った水を、ポンプでくみ上げて大きな川に出すのがはい水機場です。



南畑はい水機場(富士見市)

ダム

川の上流で、川の水をせきとめ、ためる施設です。大雨を一度に下流に流さないようにするほか、ためた水をいろいろな用水や発電に役立てる働きをします。



二瀬ダム(秩父市)

※中流部のダムとして、荒川第一調節池があります。



川の豆知識

町の発展で起こりやすくなったしん水ひ害

むかしは緑が多く、川ぞいの低いところには田んぼがたくさんありました。こういう土地は、降った雨を地下にしみこませ、川に出る水の量を調節するはたらきをしていました。

それが、町の発展で建物や道路にかわったため、降った雨はむかしの何倍もの早さで川に集まるようになりました。そのため川はあふれやすくなり、しん水によるひ害が起きやすくなりました。



平成11年のしん水ひ害のようす(鳩山町赤沼)